

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2単位)	3. 科目番号	SSMP2107 SBMP2107						
2. 授業担当教員	熊谷 大輔								
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い(積極的に数値を利用して正しく測定する)、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとする事である。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査(面接調査)の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6. 分析方法(仮説の検証を含む)、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7. 社会福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる(受験予定学生の場合)。 								
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>レポート課題</p> <p>講義回数前半期(7回目)及び後半期(14回目)にそれぞれ1回ずつ(計2回)レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。主体的な学習によって理解を確実なものとし問題解決力を養うように努めること。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>潮谷有二ほか、『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房</p> <p>*授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深めることができたか。 2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解することができたか。 3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握することができたか。 4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習することができたか。 5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付けることができたか。 6. 分析方法(仮説の検証を含む)、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践することができたか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>小テストの評価基準</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業の態度や内容の把握など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート・課題提出と発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			小テストの評価基準	40%	授業の態度や内容の把握など	30%	レポート・課題提出と発表	30%
小テストの評価基準	40%								
授業の態度や内容の把握など	30%								
レポート・課題提出と発表	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。履修者は新聞記事や各種調査結果等を通じて、今私たちの生きている社会がどのような社会なのか、そしてそこにはどのような変化が生じているのかについて関心を払う習慣を身につける。履修者には主体的な講義への参加を期待する。なお、これらすべての講義内容については授業の理解度や進捗状況により学生への配慮を行う。</p>								
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション:授業内容の進め方について(シラバス/講義概要/試験及びレポート説明など)	事前学習	事前にシラバスについて目を通しておく。						
		事後学習	説明された内容について整理する。						
第2回	社会調査の意義と目的:社会調査の意義と目的・その対象について	事前学習	教科書の序章を読み、理解を深めておく。						
		事後学習	授業の中での社会調査の意義と目的について要点をまとめる。						

第3回	統計法：統計法の概要と社会調査における倫理について	事前学習	教科書の序章を読み、理解を深めておく。
		事後学習	授業の中で社会調査における倫理について要点をまとめる。
第4回	社会調査における個人情報保護について	事前学習	事前に配布する課題について作成しておく。
		事後学習	授業の中での調査時における個人情報保護について要点をまとめる。
第5回	量的調査の方法①：(全数調査と標本調査/母集団/標本/標本抽出/その他)	事前学習	教科書の第1章を読み、理解を深めておく。
		事後学習	授業の中で実施した量的調査の種類について要点をまとめておく。
第6回	量的調査の方法②：(横断調査と縦断調査について)	事前学習	教科書の第2章を読み、横断調査と縦断調査について理解を深めておく。
		事後学習	授業の中で実施した調査方法(横断・縦断)について要点をまとめる。
第7回	これまでの振り返りと小テストの実施	事前学習	第1回から第7回の重要な項目を整理する。
		事後学習	中間試験内容を振り返る。
第8回	量的調査の方法④：(測定/測定の水準/測定の信頼性と妥当性/その他)	事前学習	事前に配布する課題について作成しておく。
		事後学習	授業の内容について整理する。 課題レポートを作成・提出する。
第9回	量的調査の方法⑤：(質問紙の作成方法と留意点/ダブルバーレル質問/パーソナルな質問とインパーソナルな質問/その他)	事前学習	事前に配布する課題について作成しておく。
		事後学習	授業の中での質問紙の作成方法について要点をまとめる。
第10回	量的調査の方法⑥：(調査票の配布と回収/訪問面接調査/郵送調査/留め置き調査/その他)	事前学習	教科書の第3章を読み、理解を深めておく。
		事後学習	授業の中での調査法(訪問面接・郵送調査・留め置き調査)について要点をまとめる。
第11回	量的調査の方法⑦：(量的調査の集計と分析/コーディング/単純集計と記述統計/質的データの関連性/量的データの関連性)	事前学習	教科書の第5章を読み、理解を深めておく。
		事後学習	授業の内容について整理する。 課題レポートを提出する。
第12回	質的調査の方法①：(観察法と面接法)	事前学習	グループに分かれ、事前に配布する課題を作成しておく。
		事後学習	授業の中で実施した演習内容(観察法・面接法)についてまとめる。
第13回	質的調査の方法②：(質的調査における記録の方法と留意点)	事前学習	グループに分かれ、事前に配布する課題を作成しておく。
		事後学習	授業の中で実施した調査における記録の必要性についてまとめる。
第14回	質的調査の方法③：(質的調査のデータの整理と分析)/社会調査の実施におけるIT活用方法	事前学習	教科書の第6章を読み、理解を深めておく。
		事後学習	授業の内容について整理する。 課題レポートを作成・提出する。
第15回	これまでの振り返りと小テストの実施	事前学習	第8回から第14回の重要な項目を整理する。
		事後学習	中間試験内容を振り返る。